

## 令和6年度 第3回京丹後市史跡整備検討委員会 会議録

- 1 **開催日時** 令和7年3月28日（金） 午後1時30分～午後3時30分
- 2 **開催場所** 網野保健センター 2階 集団指導室
- 3 **出席者** 三浦到会長、杉原和雄副会長、藤田泰弘副会長、小山元孝委員、吉岡ひとみ委員、小林朝子委員、藤原可苗委員、松井敬代委員、梅田和男委員、毛呂敏弘委員、澤吉博委員、京都府教育庁指導部文化財保護課 古閑正浩主査（事務局 松本明彦教育長、川村義輝教育次長、村田雅之文化財保存活用課課長、岡林峰夫文化財保存活用課課長補佐、藤田智子文化財保存活用課主任、村上公太文化財保存活用課主任、木本貴文観光振興課課長、山本貴之土木課課長補佐（代理））

**欠席者** 岸本直文委員、野村安正委員、奥田幸子委員、久保有紀委員

### 4 議事

- 1 開会挨拶
- 2 議事
  - (1) 網野銚子山古墳の環境整備工事について
  - (2) 網野銚子山古墳の周知・活用等について
  - (3) その他

5 **公開又は非公開の別** 公開

6 **傍聴人の人数** 0人

### 7 要旨

#### 1 開会挨拶

**事務局：** 定刻となりましたので、令和6年度第3回史跡整備検討委員会を開会いたします。教育長が急用で欠席のため、川村教育次長よりご挨拶申し上げます。

**教育次長：** 年度末のお忙しい中ありがとうございます。特に杉原先生には多大なる御協力をいただき感謝しております。網野銚子山古墳の整備は令和6年度の完成に向け進んでおります。本日は工事の進捗報告と、4月26日の完了記念イベント、そして今後の活用について御審議いただきたく存じます。平成27年から足掛け10年、この委員会も今回が最終回となります。これまでの幅広い御審議に改めて御礼申し上げます。

**会長：** 10年も続いたこの委員会も今日で終了ということで、感慨深く思っております。昨年10月、大阪の歴史同好会の方々を御案内した際、まだ道路が未完成で下の広場から歩いていただいたのですが、古墳が一望できる場所に來た途端、皆さんが感嘆の声を上げられました。「こんなに綺麗な古墳があったのか」と。竹やぶを切り開き、見せ方を工夫した成果だと感じました。あそこに「網野銚子山古墳」という看板を立てれば、絶好のフォトスポットになる。完成後の啓発、知らしめていく活動が何より大事だと考えています。

## 2 議事

### (1) 網野銚子山古墳の環境整備工事について

**事務局：** 今年度は最終年度として、道路工事、遊歩道整備、誘導看板設置などを進めてきました。一部、駐車場とガイダンス施設については、土壌調査の結果、地盤が軟弱な砂地であることが判明し、追加の改良工事が必要となったため工期を4月まで延長します。ただし、26日のイベントには間に合う見込みです。

**会長：** ガイダンス施設の戸締まりはどうなりますか。

**事務局：** 基本は開放型ですが、風雨や雪の吹き込みを抑えるため一部扉を設けるなど、維持管理の面で工夫します。

**委員：** 発掘調査で出た石（敷石など）が余っているはずですが、見た目はただの石ですが、1500年以上前にここに置かれたという事実がある。これらを散乱させず、「遺物」として適切に保管・活用してほしい。

**事務局：** 承知しました。今後のメンテナンス用も含め、適切に処理・保管します。

**委員：** 以前も話が出ましたが、国道からの誘導看板はどうになりましたか。

**事務局：** 京都府や公安委員会との協議が必要ですが、今回の事業期間内では設置が難しい状況です。

**委員：**せっかくここまで整備したのだから、予算の問題だけでなく、道路管理部署と連携して、自前で立てることも含めてぜひ検討を続けてほしい。

**委員：**周辺の草刈りについてですが、放置された梅の木や雑木が気になります。これらは市の方で伐採や剪定が可能ですか。

**事務局：**用地買収した範囲については市で管理します。通常の維持管理（剪定）は行いますが、伐採となると手続きが必要な場合があるため、個別にご相談ください。

## （2）網野銚子山古墳の周知・活用等について

**事務局：**令和6年度は、チラシ配布に加え、SNS キャンペーンや、はにコット（大阪）への出展など、市外への発信を強化しました。古代の里資料館での特別展も754名の来館があり好評でした。4月26日の式典では、網野太鼓や網野南小学校の合唱、そしてキッチンカー8台や古墳グッズ販売など「お祭り」の要素も取り入れます。

**会長：**翌日の「三大古墳ツアー」も満席だそうです。バスの中で赤坂今井墳墓や静御前の話など、周辺の歴史も絡めて説明してあげると喜ばれるはず。

**事務局：**私も同乗しますので、しっかり解説させていただきます。

**委員：**ワークショップで使う「ちりめん古墳しおり」は、小学生と大学生が協力して試作しています。完成まで30分ほどかかる本格的なものですが、地元の伝統と歴史を組み合わせの良い企画だと思っています。

**会長：**1回きりのイベントで終わらず、熱量を維持するために「日本海三大古墳」を検証するようなシンポジウムを第2弾、第3弾と続けてほしい。

## （3）その他

**委員：**資料を見ると、これまでは「網野銚子山古墳」の整備に特化してきましたが、本来の「史跡整備検討委員会」の役割は、市内の史跡全般に対する提言ではないのでしょうか。今後はどういう位置付けになるのですか。

**事務局：**本委員会は、元々はマスタープランに基づき優先順位の高い史跡を検討する場でしたが、ここ10年は銚子山古墳に特化した議論をお願いしてきました。今後は、令和4年に策定した「文化財保存活用地域計画」に基づき、幅広い文化財の保存・活用を進める中で、新たな整備の機運が高まれば、また別の史跡をテーマとした委員会を立ち上げる可能性はあります。

**委員：** 銚子山はできましたが、周辺の小銚子古墳や、まだ発掘が進んでいない寛平法皇陵古墳、神明山古墳など、大切な史跡は他にもあります。将来的にはこれらへの調査や整備も視野に入れていただきたい。

**委員：** 地域の祭りでこの場所を活用したいという声もある。史跡の保存に影響がない範囲で、広く市民が使える場所にしてほしい。

**事務局：** 大掛かりなイベントは相談が必要ですが、普段使いの公園のように子供が遊ぶことなどは、制限なく行えるようにしたいと考えています。

### 3 閉会挨拶

**副会長：** 私は平成 16 年のマスタープラン立ち上げ時から関わってきました。当時は発掘調査をすること自体が目的のような時代でしたが、こうして整備し、市民に活用してもらった「夢のような事業」が実現したことに感銘を受けています。銚子山古墳は、単に「日本海側で最大」というだけでなく、大和政権の中心地であった奈良や大阪の巨大古墳群（200メートル超は全国に 30 基ほどしかない）と並ぶ価値があります。なぜここにあるのか、という謎は尽きませんが、大陸との関わりを示す第一級の遺産です。事務局の 10 年にわたる努力に敬意を表します。

**会長：** 事務局の皆様、本当にお疲れ様でした。築造した当時の人々も、喜んでいるのではないのでしょうか。ここからが始まりです。市民に愛される史跡にしていきましょう。